

**世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の新たな魅力を紹介する
写真家 保田紀元 写真展『ファインダーの向こうの古墳たち』
市民ギャラリーにて開催中！**



史跡応神天皇陵古墳外濠外堤のサクラ

ギャラリーはびきの（市民ギャラリー）において、写真家・保田紀元氏の写真展『ファインダーの向こうの古墳たち』が、2025 年 10 月 25 日（土）から 2026 年 3 月 31 日（火）まで開催中です。

展示内容は、世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」の壮麗な風景や出土品です。季節ごとに変わる古墳の風景を通じて、地域の歴史や文化の魅力を新たに発見していただけます。

開催時間は午前 9 時から午後 5 時。土日も開館しており、入場無料でどなたでもお楽しみいただけます。古代と現代が交差する瞬間が感じられる貴重な機会に、ぜひご来場ください。

開催概要

展示会名称 : 写真家 保田紀元 写真展『ファインダーの向こうの古墳たち』
開催期間 : 2025 年 10 月 25 日（土）から 2026 年 3 月 31 日（火）午前 9 時から午後 5 時まで
開催場所 : 羽曳野市役所 内 ギャラリーはびきの（住所：大阪府羽曳野市誉田 4-1-1）
ホームページ :
https://www.city.habikino.lg.jp/soshiki/shiminjinken/shimin_kyodo/gallery/17147.html

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

羽曳野市 文化財・世界遺産室 担当：古澤 TEL：072-958-1111（代表） MAIL：bunka-sekai@city.habikino.lg.jp

展示会メッセージ

世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」は古代の人々の思いをつないで、今もこの地に静かに佇んでいます。その歴史的・普遍的な価値は多くの人によって語り継がれ、人類共通の大切な文化遺産として守られてきました。そして、その価値を未来へつなぐためには、知識として学ぶだけでなく、実際に“感じる”ことが大切です。

今回の展示では、写真家・保田紀元氏が撮影した写真を通し、古墳の新たな魅力を紹介します。保田氏のファインダーには、古墳そのものを撮るだけでなく、季節ごとに咲く草花、空と流れる雲、そこに集うこどもたちの姿が映し込まれ、見ているだけで心が温かくなるような情景があります。また、世界遺産登録に向けた取り組みの中でも人々の心を動かし、古墳の魅力を伝える力となりました。

どうぞこの機会に保田氏の写真を通して古墳がもつ歴史の重みと、今を生きるまちの風景の美しさを感じてください。

“我がまちの宝”が皆さまの目に新しい姿で映しだされますように。

作品概要

写真：36点

遺物：20点（埴輪、土器など）

その他：雑誌、記念切手など



高架下の赤面山古墳



応神天皇陵古墳の拝所



撮影場所にちなんだ遺物



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

羽曳野市 文化財・世界遺産室 担当：吉澤 TEL：072-958-1111（代表） MAIL：bunka-sekai@city.habikino.lg.jp

写真家 保田紀元（やすだ・としゆき）氏 プロフィール

昭和 15 年（1940 年）11 月 18 日、北海道芽室町に生まれる。名前の「紀元」は、この年に実施された「紀元二千六百年記念行事」にちなんで名付けられたとされている。

昭和 34 年 3 月、北海道立芽室高校普通科を卒業後、昭和 35 年 3 月に日本写真専門学校（大阪）を卒業。同年 4 月、株式会社マゴシ（写真館）に入社。平成 7 年 4 月に同社を退職した後、同年 4 月からは株式会社月華殿（写真室）に入社し、平成 16 年 10 月まで写真の世界で活躍。

退職後は、写真家集団「楽遊写」の代表などに就任し、精力的に創作活動を展開。活動の一環として、平成 30 年（2018 年）にアートスペース わなかで開催された楽遊写 第 33 回「YOU・遊」展に出展している。

保田氏の作品は全国写真展覧会で複数回にわたり評価され、第 54 回で「北条の羅漢」、第 56 回で「悠久の古市古墳群」、第 57 回で「古市古墳群」、第 61 回で「白滝山の羅漢さん」などが入選を果たしている。

令和 7 年 3 月 1 日永眠。享年 86 歳。



応神天皇陵古墳外濠外堤にて